

第1学年社会科（歴史的分野）学習指導案

1 単元名 第3章 中世の日本 1節「武士の台頭と鎌倉幕府」

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領歴史的分野の内容に示された「(3) 中世の日本」の内容のうち、平安時代中頃の武士の台頭から鎌倉時代にかけての武家政権の成立とその全国支配の広まりを中心に扱う。これは時代区分では古代から中世への転換期にあたる。学習指導要領においても時代を大観する視点が重視されているが、古代と中世の相違点として、貴族中心の政治・経済から武士中心の政治・経済への転換、武家政権としての幕府の成立、民衆の成長と団結の三点を押さえない。

また、単元中には、11世紀後半の東北地方の大きな戦乱（前九年合戦・後三年合戦）や奥州藤原氏、中尊寺金色堂が登場する。これは生徒にとっても身近な地域教材であり、学習指導要領歴史的分野の内容に示された「(1) 歴史のとらえ方」のイ「身近な地域の歴史を調べる活動」として、地域への関心を高める上でも、地域の具体的な事柄とのかかわりの中でわが国の歴史の動きを理解させる上でも大変有意義な教材であり、単元の指導計画の中に位置づけた。武士の台頭を踏まえた上で、地方武士団の一つとして奥州藤原氏を扱い、身近な地域の歴史に対する興味・関心を高めていきたい。事後には全国支配を目指す源頼朝の征服すべき勢力として押さえていきたい。

(2) 生徒について

まじめな学習姿勢で、反応や発言が活発であり、歴史に興味・関心を持つ生徒が多い。奥州藤原氏の学習に関しては、ほとんどの生徒が小学校時代に出前授業を受けており、事前のレディネステストでは平泉の位置を特定出来た生徒は83%、写真から中尊寺金色堂を類推できた生徒は73%、中尊寺金色堂を建立した人物が藤原清衡であることを認識していた生徒は約36%であった。一方、当時の奥州藤原氏の特産品を金と認識していた生徒は20%、藤原清衡の身分や出自を知っていた生徒はおらず、漠然と偉い人という回答が若干あった。このことから奥州藤原氏について、その登場前史となる前九年合戦・後三年合戦や、富の源泉であった金や馬、北方との交易について改めて学習することは、奥州藤原氏と平泉への理解と歴史への興味・関心を深める上で意義深いと考える。

(3) 指導について

武士の台頭と武家政権の成立、武家政権による全国支配の広まりが単元の中心概念であることから、武士について、その起こりや本来的な身分を踏まえつつ、地方での戦乱、院政、都での戦乱、源平合戦などを通じてその実力が発揮され、貴族に代って政治・経済の実権を握っていくようになる様子を段階的に捉えさせていきたい。奥州藤原氏と平泉の指導に関しては、地方武士団の形成と源頼朝による全国統一事業の間に位置づけた。鎌倉幕府の成立以降に関しては、幕府の基盤となる将軍と御家人との土地を仲立ちとした主従関係、いわゆる封建制度を繰り返し指導するとともに、承久の乱を経て、鎌倉幕府の支配が全国に広まっていったことを押さえていきたい。武士の生活については、戦への備えと土地支配権の拡大を、民衆の生活については、農業の着実な発展、手工業者の登場、定期市の開催を押さえていきたい。鎌倉時代の新しい文化と宗教に関しては、度重なる戦乱や天変地異などの社会不安を背景に、無常観に基づく文学作品や、新しい仏教の広まりについて理解させていきたい。

3 単元の知識の構造図

【中心概念】

平安時代の中頃から武士が台頭し、院政や平氏政権を経て、源頼朝のもと御家人制度を基盤とする鎌倉幕府が成立した。承久の乱を経て、幕府の支配が全国に広まり武家政権が発展していった。

鎌倉時代には武士や民衆の成長を背景とした、新しい文化と宗教が生まれた。



4 単元の目標

(1) 武士が台頭し武家政権が成立したことや鎌倉時代の武士や民衆の動き、鎌倉時代の新しい文化と仏教に対する関心を高め、意欲的に追究し、中世の文化財を尊重しようとしている。

【社会的事象への関心・意欲・態度】

(2) 武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配がしだいに全国に広まり、武家社会が発展していったという時代の流れ、鎌倉時代に新しい文化と仏教が生まれたことについて多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

【社会的な思考・判断・表現】

(3) 武士が台頭し武家政権が成立したことと、鎌倉時代の武士や民衆の動き、鎌倉文化などに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。

【資料活用の技能】

(4) 武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配がしだいに全国に広まり武家政権が発展していったこと、鎌倉時代の新しい文化や仏教の特色を理解し、その知識を身に付けている。

【社会的事象についての知識・理解】

5 単元の指導計画

時	目 標	学 習 活 動	評 価 規 準 と 評 価 方 法
1	武士の台頭について、地方や都で起きた戦乱の様子を通して追究し、その知識を身につけることができる。	武士が台頭し、政治の実権を握るまでに至った経緯について調べる。	武士の台頭を、地方や都で起きた反乱の様子などから理解している。 【知識・理解】ワークシート
2 (本時)	奥州藤原氏について、意欲的に追究することができる。 奥州藤原氏が数々の寺院を建立した理由を多面的に考察することができる。	奥州藤原氏が数々の寺院を建立した理由を資料から読み取り、発表する。	奥州藤原氏について、意欲的に追究している。 【関心・意欲・態度】ワークシート 奥州藤原氏が数々の寺院を建立した理由を多面的に考察している。 【思考・判断・表現】ワークシート
3	鎌倉幕府の成立までの経緯、御恩と奉公の関係、守護・地頭の設置と役割について理解し、その知識を身につけることができる。	源頼朝による鎌倉幕府の成立までの経緯を調べ、将軍と御家人との主従関係について調べる。	鎌倉幕府の成立までの経緯、御恩と奉公の関係、守護・地頭の設置と役割について理解し、その知識を身につけている。 【知識・理解】ワークシート
4	承久の乱後の幕府の支配力が西国に及んだ理由をまとめ、説明することができる。	承久の乱の前と後の変化を、幕府の支配力に着目して説明する。	承久の乱後の幕府の支配力が西国に及んだ理由をまとめ、説明している。 【思考・判断・表現】ワークシート
5	絵巻物などの資料から、武士や民衆の生活の様子を読み取ることができる。	武士の日常生活や民衆の成長のようすを資料から調べる。	絵巻物などの資料から、武士や民衆の生活の様子を読み取っている。 【資料活用】ワークシート
6	鎌倉時代の新しい文化や宗教と時代背景との関わりについて多面的に考察することができる。	鎌倉時代の文化や仏教にみられる新しい動きを理解させ、当時の社会との関連を考える。	鎌倉時代の新しい文化や宗教と時代背景との関わりについて多面的に考察している。 【思考・判断・表現】ワークシート

6 資料活用構想図 中世の日本「武士の台頭と鎌倉幕府」

段階 時	さがす・見つける	比較・関連・総合する 表現・説明する
1	①貴族と武士のイラスト【絵】 ②平時忠のこぼ 【文章】 ・武士が政治の実権を握るようになったことをつかむ。 ③武士団の分布【地図】 ・武士団の分布の様子をつかむ。	④将門の乱と藤原純友の乱【表】 ・武士の反乱を武士の力で解決していることをつかむ。 ⑤白河上皇を警備する武官【絵】 ・院政において上皇が武士の力を積極的に利用していることをつかむ。 ⑥保元の乱と平治の乱【表】 ・天皇家・摂関家内部の争いを武士の力で解決していることをつかむ。
2 (本時)	■武士団の分布【地図】(前時) ■平等院鳳凰堂【写真】 ・浄土信仰について想起する。 ①中尊寺金色堂【写真】  ②毛越寺【復元CG画像】 ③無量光院【復元CG画像】  ④奥州藤原三代【似絵】  ・かつて平泉に大寺院が建立されていたことの意外性に気づく。 ・奥州藤原氏や平泉について断片的知識しか持ち合わせていないことを認識する。	⑤前九年合戦・後三年合戦【文章】 (もしくは【DVD】) ・二つの合戦の対立構図、結果を調べさせ、奥州藤原氏が東北地方を支配するに至った経緯をつかむ。 ⑦宋版一切経の購入【文章】 ⑧東北地方の金山【地図】 ・購入に費やした金や金山の分布を調べさせ、奥州で産金が盛んであったことをつかむ。 ⑨毛越寺薬師如来座像の報【文章】 ⑩北海道との交易【文章】 ・報酬の内容を調べさせ、奥州藤原氏が金以外にも様々な貴重な産物を得ていたことをつかむ。 ⑪中尊寺建立供養願文【文章】  ・資料を読み、奥州藤原氏の中尊寺等の寺院建立の意図が平和な理想社会の実現であったことをつかむ。

3	<p>①平時忠のことば【文章】</p> <p>②以仁王の令旨【文章】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・源氏が平氏政権の打倒の兵を挙げたことをつかむ。 	<p>③源頼朝関連年表【年表】</p> <p>④源平合戦日本地図【地図】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・源義経らの活躍により平氏を滅ぼしたことをつかむ。 <p>⑤腰越状【文章】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平氏滅亡後、源頼朝が源義経と対立したことをつかむ。 <p>⑥鎌倉幕府のしくみ【図】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方の役人として、国ごとに守護、荘園・公領ごとに地頭を配置したことをつかむ。 <p>⑦封建制度のしくみ【図】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・将軍と御家人が土地を仲立ちとして、御恩と奉公の主従関係を結んでいたことをつかむ。
4	<p>①源氏・北条氏の系図【系図】</p> <p>②後鳥羽上皇の院宣【文章】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・源氏直系の将軍が三代で途絶えたこと、倒幕の院宣が発せられたことなど、鎌倉幕府の危機的状況をつかむ。 	<p>③北条政子のうったえ【文章】</p> <p>④封建制度のしくみ【図】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・御家人たちが御恩と奉公の結びつきを重んじ、幕府側に結集したことをつかむ。 <p>⑤鎌倉幕府のしくみ【図】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・執権、六波羅探題の立場・役割をつかむ。 <p>⑥御成敗式目【文章】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幕府の政治が執権を中心とした有力な御家人の会議で運営されていたことをつかむ。
5	<p>①地頭をうったえた農民たち【文章】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農村では民衆が団結して地頭をうったえたことをつかむ。 	<p>②武士の館【絵図】</p> <p>③武芸の訓練【絵図】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士が戦に備え、武芸の訓練に励み、質素な生活を送っていたことをつかむ。 <p>④建築現場で働く手工業者【絵図】</p> <p>⑤定期市の様子【絵図】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業の進歩や手工業、商業の発達についてつかむ。
6	<p>①平家物語【文章】</p> <p>②琵琶法師【絵図】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鎌倉時代の文化の特色について、武士や民衆が新たな担い手となったことをつかむ。 	<p>③方丈記【文章】</p> <p>④東大寺南大門と金剛力士像【写真】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「無常観」や力強さが武士や民衆に受け入れられたことをつかむ。 <p>⑤新古今和歌集【文章】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・貴族を中心とした文化も発達したことをつかむ。 <p>⑥鎌倉時代の新しい仏教の比較【表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しい仏教の宗派名や開祖、行いの特徴をつかむ。

7 本時の指導

(1) 目標

- ・奥州藤原氏について意欲的に追究することができる。
- ・奥州藤原氏が平泉に数々の寺院を建立した理由を多面的に考察することができる。

(2) 評価規準

観 点	評価規準
社会的事象への関心・意欲・態度	身近な地域の歴史である奥州藤原氏について感心を持ち，意欲的に追究している。
社会的事象についての思考・判断・表現	11世紀後半の前九年合戦・後三年合戦を経て，奥州藤原氏が平泉を拠点に東北地方を支配したこと，金や馬などの産物と北方との交易による経済力を背景に，平和な理想社会を求めて数々の寺院を建立したことについて多面的に考えることができる。

(3) 本時の展開・・・次ページ

8 板書計画


「奥州藤原氏と平泉」

学習問題

奥州藤原氏は，なぜ平泉に数々の寺院を建立したのだろうか。

予想

中尊寺金色堂
【写真】



支配者としての地位

金や馬による経済力

北方都の交易による経済力

浄土信仰
非戦 平和

小グループの意見

中尊寺建立供養願文から考えたこと

(3) 本時の展開

社会的な見方や考え方を身に付けさせる資料活用

(○資料提示の工夫 □複数の資料を比較・関連・総合させる工夫 ◇資料をもとに考えを表現させる工夫)

段階	学習内容と学習活動 (・指導上の留意点)	社会的な見方や考え方を身に付けさせる資料活用
<p>問題の把握 (8分)</p>	<p>1 既習事項の確認 (1) 平安時代の中頃、貴族に代り武士が台頭したことを確認する。 (2) 平安時代の中頃、浄土信仰がおこったことを確認する。</p> <p>2 学習問題の設定 (1) 平泉に関する資料を見ながら、知っていることを発表する。 ・都ではない平泉に大寺院が建立されていたことの意外性を強調する。 (2) 学習問題の提示</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>奥州藤原氏は、なぜ平泉に数々の寺院を建立したのだろうか。</p> </div>	<p>■武士団の分布【地図】</p> <p>■平等院鳳凰堂【写真】</p> <p>①中尊寺金色堂【写真】 ②毛越寺【復元CG画像】 ③無量光院【復元CG画像】 ④奥州藤原三代【似絵】 ○ICTを活用し提示する。</p>
<p>問題の追究 (32分)</p>	<p>3 予想の発表 (1) 問題に対する予想を発表する。 ・生徒の意見を整理し、調べていくための観点を、政治権力、経済力の二点にまとめる。</p> <p>4 学習問題の追究 (1) 小グループごと、複数の資料から分かったこと、気づいたことを読み取る。 ・箇条書きで書いてもよいことを確認する。 ・困難なグループには、読み取るための視点やヒントを与える。 (2) 小グループごと、分かったこと、気づいたことから、学習問題について考察する。 ・困難なグループには、考察するための視点を与える。 (3) グループで話し合ったことを全体の場で発表し、意見を交流し合う。 ・他のグループが発表した内容も学習シートに記入することを確認する。 (4) 奥州藤原氏が平泉に数々の寺院を建立した理由を、その目的から考える。 ・藤原清衡の願いに迫るよう促す。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>⑤前九年合戦・後三年合戦【文章】 ⑥奥州藤原氏・安倍氏・清原氏系図【系図】 ⑦宋版一切経の購入【文章】 ⑧東北地方の金山【地図】 ⑧毛越寺薬師如来座像の報酬【文章】 ⑩北海道との交易【文章】 ⑩中尊寺建立供養願文【文章】</p> </div> <p>・東北地方の支配者としての地位(⑤⑥) ・金や馬、北方との交易による経済力(⑦⑧⑨⑩) ・浄土信仰、非戦・平和への祈り(⑩)</p> <p>□複数資料から読み取った事柄を関連させて、上の三つの概念を統合させる。</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>5 学習問題のまとめ 学習問題に対する自分の答えを学習シートに記入する。 【記入例】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>奥州藤原氏は前九年合戦・後三年合戦を経て、平泉を拠点に東北地方に勢力を広げた。金や馬などの産物と北方との交易による経済力を背景に、平和な理想社会(極楽浄土)を求めて、中尊寺金色堂など数々の寺院を建立した。</p> </div>	<p>◇資料から読み取ったことと、他のグループの発表から分かったことをもとに自分の考えを表現させる。</p> <p>【評価】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>奥州藤原氏が数々の寺院を建立した理由を二つ、資料から考察し、学習シートに自分の考えを記入している。</p> </div>